

地勢

列車に對
する巡警
の敬禮

餘り、石礫沿岸に滿つ。東長壽トシヤンシヨウを迎へて新安シンアンを送り、正定府チヨンヂンを過りて枕頭チエントウに達す。當地は山西太原線シヤンシーターヨワンとの連絡點なるも、停車場の設備甚だ不完全にして、現に大工事中に在り。

寶嫗ヅイヨワン、元氏ゲンヂ、高邑カウイ、鎮内チンネン、内邱等ナイチユウの諸邑を過ぎて、午後五時十八分順德シエントウに着す。更に沙河リシロウを経て臨洛リンロウに到る頃、日既に傾きて、邯鄲カントワン、馬頭マートウ、磁州チヨウフオンサン、豐桑の各驛を暮靄の裡に經過し、彰德府チャントウにて日全く没し、城下に投宿す。

今日通過せし各所の地勢は、概ね開濶にして、村落其の間に點綴し、多く畑地には藍、綿花等を栽培す。樹木絶へて之れ無きには非らずと雖も、疎々として陰蔽を爲さず。臨洛以南は、西方に山岳漸く車窓に薄り、鐵路に並行しつゝ、南に走り、線路は時々其の山尾を貫けり、然れども東方は一面開濶の地、唯小起伏を爲す有るのみ。道路は殆ど凹道、停車場は總て完全のもの無し。

茲に頗る奇異の感を懷かしめしは、鐵道沿線、大凡千歩間毎に、巡警佇立し、列車通過の都度、執銃敬禮を施せると、又停車場毎に、巡警整列して頭等即ち一等乗客に對し喇叭を吹き、太鼓を鳴し、以て敬意を表する一事なりとす。蓋し其の巡警を配置